

令和 7 年 3 月 8 日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立烏森小学校  
 学校長 丸山 智子

令和 6 年度 目黒区立烏森小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第 1 回実施日時 令和 6 年 6 月 8 日 (土) 12 時 30 分～13 時 30 分
- (2) 第 2 回実施日時 令和 6 年 12 月 7 日 (土) 12 時 30 分～13 時 30 分

2 参加者

学校評議員 (澤 勝様、田村秀子様、浅川博人様、芝田重実様、一見貴重様)  
 校長・副校長

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと

評価項目	四者*による学校評価アンケートの結果分析	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見															
	◎ (成果)、● (課題)、 ● (成果と課題の両者を含む)																	
<b>学校全体について</b> ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>92.0</td> <td>+1.2</td> </tr> <tr> <td>児童(低)</td> <td>88.6</td> <td>▲4.5</td> </tr> <tr> <td>児童(高)</td> <td>91.9</td> <td>▲0.5</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>100</td> <td>±0</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	92.0	+1.2	児童(低)	88.6	▲4.5	児童(高)	91.9	▲0.5	地域	100	±0	◎四者ともに肯定的評価が 9 割以上であり、学校教育全体への評価はおおむね良好であった。 ●今年度より紙ではなく、保護者情報システムでのアンケート回収となったため、保護者への周知や呼び掛けが難しく、保護者の評価の回収率は、76.1% (家庭数に対して) と低くなったと考えられる。	・引き続き学校の教育活動を充実させるとともに、学校生活の様子について、情報発信に努める。 ・文書で学校の取組を周知したり、PTA 運営部にも協力を依頼したりなど、学校評価の回収率上昇のための手立てを考えていく。	・昨年度落ち着いた学年は落ち着いたように思う。 ・低学年を中心に、楽しそうに過ごしているように思う。
対象	結果	差																
保護者	92.0	+1.2																
児童(低)	88.6	▲4.5																
児童(高)	91.9	▲0.5																
地域	100	±0																
<b>I 教育目標について</b> ・教育目標、時程、教育内容全体について <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>87.5</td> <td>+11.3</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	87.5	+11.3	●保護者、地域とも、「E 分からない」とした評価がそれぞれ 13.8%、15.4% となっており、評価の低	・「E 分からない」とした評価が、全体の評価を押し下げており、学校の取組と教育目標の関係に	・「E 分からない」の分析が必要。評価ができないのか、教育活動の内容が分からないのか、そもそ									
対象	結果	差																
保護者	87.5	+11.3																

<table border="1"> <tr> <td>地域</td> <td>76.9</td> <td>▲11.1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.7</td> <td>+2.4</td> </tr> </table>	地域	76.9	▲11.1	教職員	94.7	+2.4	<table border="1"> <tr> <td>地域</td> <td>76.9</td> <td>▲11.1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.7</td> <td>+2.4</td> </tr> </table>	地域	76.9	▲11.1	教職員	94.7	+2.4	<p>下につながった。</p> <p>○感染症対策が5類に移行してのち、学校の教育活動も以前の様子に戻りつつあり、教職員の評価は昨年度より上がっている。</p>	<p>について、保護者会や学校ホームページ等で情報発信していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での週時程を見直し、生活リズムを整え、落ち着いた学校生活を整えていく。</li> </ul>	<p>も教育目標自体が伝わっていないのか、このアンケート項目では分からない。設問の改善が必要ではないか。</p>		
地域	76.9	▲11.1																
教職員	94.7	+2.4																
地域	76.9	▲11.1																
教職員	94.7	+2.4																
<p><b>II 心の教育について</b></p> <p>・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>86.1</td> <td>+9.9</td> </tr> <tr> <td>児童(低)</td> <td>98.7</td> <td>+1.6</td> </tr> <tr> <td>児童(高)</td> <td>95.2</td> <td>▲4.3</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.7</td> <td>▲5.3</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	86.1	+9.9	児童(低)	98.7	+1.6	児童(高)	95.2	▲4.3	教職員	94.7	▲5.3	<p>○道徳の授業を中心として、一人ひとりに考えさせる道徳が浸透してきており、児童、教職員の評価は高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者の「E分らない」とした評価が18.8%となっており、評価の低下につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業を年間指導計画に沿って行うとともに、教育活動全体を通じて、道徳的心情や態度を育てていく。</li> <li>・授業で学んだことが、学校生活の態度に反映されるよう、道徳的な実践力向上に向けて、学級会活動の充実などを図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャットやSNSでのやりとりが増えてくる中で、表現力に乏しかったり、意図を読み取れなかったりなど、字面だけでは伝わることが多くなってきている。学校では対面でのコミュニケーションを生かして、心の教育を進めていく必要がある。</li> </ul>
対象	結果	差																
保護者	86.1	+9.9																
児童(低)	98.7	+1.6																
児童(高)	95.2	▲4.3																
教職員	94.7	▲5.3																
<p><b>III 学習指導等について</b></p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について</p> <p>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>87.5</td> <td>+16.0</td> </tr> <tr> <td>児童(低)</td> <td>93.0</td> <td>+4.5</td> </tr> <tr> <td>児童(高)</td> <td>92.5</td> <td>▲3.2</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>89.5</td> <td>▲10.5</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	87.5	+16.0	児童(低)	93.0	+4.5	児童(高)	92.5	▲3.2	教職員	89.5	▲10.5	<p>○区学力調査や全国学力学習状況調査の結果から見ても、児童の学力が全体的に向上しており、「分かる、できる」児童が高学年を中心に増え、評価が向上したと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●低学年の児童の約1割が「学校の勉強が分かりますか。」について否定的な評価をしており、大きな課題であるとする。</li> <li>●保護者の「E分らない」とした評価が</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習タイムの探究活動や学習の複線化などを通して、多くの児童が意欲的に取り組むことができるようにするとともに、学力の定着のための基礎・基本の充実や、学習タイムのより有効的な活用を図る。</li> <li>・「E分らない」とした評価が、全体の評価を押し下げており、学校の取組や子どもたちの様子について、校内の大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力が高い児童もいれば、特別に支援を要する児童もいるので、ますます複線化や習熟度別の学習が重要になってくる。</li> <li>・児童の教え合い、学び合いは、双方に効果的だと思う。</li> </ul>
対象	結果	差																
保護者	87.5	+16.0																
児童(低)	93.0	+4.5																
児童(高)	92.5	▲3.2																
教職員	89.5	▲10.5																

	18.8%となっており、評価の低下につながった。	型提示装置や学校ホームページ等で情報発信していく。																			
<p><b>IV 体育・健康教育について</b></p> <p>・体力向上、健康の促進に向けた取組について</p> <table border="1" data-bbox="199 488 552 734"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>88.2</td> <td>+16.2</td> </tr> <tr> <td>児童(低)</td> <td>90.5</td> <td>▲0.9</td> </tr> <tr> <td>児童(高)</td> <td>86.0</td> <td>▲1.0</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>84.2</td> <td>▲15.8</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	88.2	+16.2	児童(低)	90.5	▲0.9	児童(高)	86.0	▲1.0	教職員	84.2	▲15.8	<p>◎芝生養生期間を見直し、11月の養生を無くしたことから、体育学習の充実につながり、教員の評価が上がったものと考えられる。しかし、11月の養生が無くなったため、芝生の状態が悪くなり、課題である。</p> <p>●保護者の否定的な評価が13.0%（差▲2.3）となっており、引き続き芝生の養生期間が長いとの指摘がある。</p> <p>●保護者の「E分からない」とした評価が13.4%となっており、評価の低下につながった。</p>	<p>・次年度芝生の養生期間を見直し、熱中症対策で校庭を使いづらいつら7～8月にしっかりと養生していく。そのため、体育科の授業や体力向上の取組の年間指導計画も見直しを図っていく。</p> <p>・「E分からない」とした評価が、全体の評価を押し下げており、体育学習の様子や、烏森ランニング・大縄大会などの体力向上の取り組みについて、学校ホームページ等で情報発信していく。</p>	<p>・鬼ごっこなど、身体を動かすことが好きな児童が多い。烏森ランニングが復活して良かった。安全面に配慮しながら、今後も活動の機会をしっかりと保障ほしい。</p>			
対象	結果	差																			
保護者	88.2	+16.2																			
児童(低)	90.5	▲0.9																			
児童(高)	86.0	▲1.0																			
教職員	84.2	▲15.8																			
<p><b>V 特別活動について</b></p> <p>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて</p> <table border="1" data-bbox="199 1637 552 1933"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>85.7</td> <td>▲6.4</td> </tr> <tr> <td>児童(低)</td> <td>92.4</td> <td>▲1.9</td> </tr> <tr> <td>児童(高)</td> <td>97.8</td> <td>+2.1</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>89.2</td> <td>+4.6</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.7</td> <td>+2.4</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	85.7	▲6.4	児童(低)	92.4	▲1.9	児童(高)	97.8	+2.1	地域	89.2	+4.6	教職員	94.7	+2.4	<p>○感染症対策5類移行後は、多くの行事で人数制限などを行わなかったため、多くの保護者の方に参加していただき、高い評価につながったと考える。</p>	<p>・引き続き、学校行事や異学年交流などの充実を図っていく。</p> <p>・週時程を見直し、集会や委員会発表の機会を充実させていく。</p>	<p>・みんな元気に取り組んでいる。体育や音楽などの活動も充実しているように感じる。</p>
対象	結果	差																			
保護者	85.7	▲6.4																			
児童(低)	92.4	▲1.9																			
児童(高)	97.8	+2.1																			
地域	89.2	+4.6																			
教職員	94.7	+2.4																			

**VI 学校生活全般について**

＜生活指導＞

- ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて

対象	結果	差
保護者	86.4	+19.5
児童(低)	91.1	+4.3
児童(高)	89.2	▲4.3
地域	70.3	▲6.6
教職員	89.5	+12.6

- 今年度、校内が落ち着かないことがあり、保護者・地域の評価が低下している。
- 教職員の協力体制により、校内の落ち着かない状況乗り越え、後半落ち着きを取り戻しつつあるため、教職員の評価は昨年度より上がっている。

- ・学習規律の徹底等については、教職員による共通理解・共通指導はもちろんのこと、児童自身に規律の必要性を理解させ、自分たちでより良い学校生活を作っていけるような学年・学級経営を進めていく。
- ・落ち着いた学校生活を取り戻すため、時間割を見直し、生活リズムを整え、教職員の協力体制や特別支援教育の強化を図っていく。

- ・地域も学校の様子を気にかけている。最近、落ち着いてきたように思うが、引き続き、子どもたちが安心して過ごせる学校環境を作っていってほしい。

＜防災教育・安全指導＞

- ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて

対象	結果	差
保護者	85.4	+8.4
児童(低)	95.6	+0.2
児童(高)	96.2	▲1.6
教員	86.8	▲13.2

※防災教育・安全指導の平均値

- 保護者の「E分らない」とした評価が24.9%となっており、評価の低下につながった。
- 児童はしっかりと「おかしも」を守り、避難訓練に取り組んでおり、目安となる5分以内の避難完了ができている。そのことが、児童の自信につながり、評価が上昇につながったと考えられる。

- ・学習用情報端末の家庭への持ち帰りも始まり、改めて情報モラル教育などの充実を図っていく。
- ・「E分らない」とした評価が、全体の評価を押し下げており、計画的に実施して避難訓練や事件・事故の未然防止に向けての取り組みなどを学校ホームページ等で情報発信していく。

- ・地域の保育園や中学校と連携した避難訓練などを進めてほしい。
- ・避難訓練なども、担当を決めて記録し、振り返り・反省をしてはどうか。

<p>&lt;幼・保・小・中連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</li> <li>・近隣の幼稚園・保育園との連携について</li> </ul> <table border="1" data-bbox="199 392 555 539"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>80.1</td> <td>+13.2</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>89.5</td> <td>▲2.8</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	80.1	+13.2	教員	89.5	▲2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者の「E分らない」とした評価が28.5% (差▲10.9)となっており、評価の低下につながった。</li> <li>○感染症対策5類移行後、昨年度の活動に加え、5年生の中学校体験授業や中学生の運動会お手伝い、保育園幼稚園との交流など、多くの連携行事を行うことができるようになったため、教員の評価は高いと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「E分らない」とした評価が、全体の評価を押し下げており、連携行事の目的や様子を学校ホームページ等で情報発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしても、当該学年以外の保護者には伝わりづらい面があるので、情報発信を工夫してはどうか。</li> </ul>			
対象	結果	差													
保護者	80.1	+13.2													
教員	89.5	▲2.8													
<p><b>VII 情報の発信、家庭・地域との連携について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA活動の充実などについて</li> </ul> <table border="1" data-bbox="199 1205 555 1402"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>82.6</td> <td>▲5.3</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>89.2</td> <td>+20.0</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>84.2</td> <td>▲0.4</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	82.6	▲5.3	地域	89.2	+20.0	教員	84.2	▲0.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者情報システム（C4th Home &amp; School）での学年だよりなどのお便りの配信し、利便性が向上したことにより、保護者の評価が高くなっていると考えられる。</li> <li>●学校行事等の案内の発送基準を厳格化したことにより、以前配付していた案内が届かない地域の方もいることが影響していると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、保護者連絡システムや学校ホームページを活用し、保護者に情報が伝わるようにしていく。</li> <li>・地域の実態に応じて、適切に案内を発送できるよう、名簿の見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年だよりなどが、保護者情報システムで、すぐに手元で見られるのは便利だと思う。今後も有効に活用して行ってほしい。</li> </ul>
対象	結果	差													
保護者	82.6	▲5.3													
地域	89.2	+20.0													
教員	84.2	▲0.4													
<p><b>VIII 教員の人材育成について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</li> </ul> <table border="1" data-bbox="199 1921 555 2022"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>78.9</td> <td>▲5.7</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	教員	78.9	▲5.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の業務自体が多く、自己研鑽のための時間や心の余裕が確保できていなかった。また、校務軽減のための時間講師を確保することも難し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40分授業午前五時間制で生み出された時間を用いて、教職員の職務時間を確保するなどする。</li> <li>・サポートスタッフと協力し、時間講師</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業を引き受けてきたり、授業の複線化に積極的にチャレンジしたりなど、前向きに自己研鑽に励んでおり、そのような自主性</li> </ul>						
対象	結果	差													
教員	78.9	▲5.7													

	く、仕事の余裕が無かったことが、評価の低下につながったと考えられる。	の確保に取り組む。	を育てていってほしい。						
<b>Ⅸ 教員の働き方改革について</b> ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	●今年度は、後期前半に運動会、研究開発学校研究発表会、学芸音楽会と大きな行事が集中し、多忙を極めたり、校務分掌の内容により、仕事量に大きな差が生じたりしたため、評価が大きく低下したものと考えられる。	・40分授業午前5時間制で生み出された時間を活用し、働き方改革を推進していく。 ・次年度の年間計画を見直し、行事の平準化を図る。 ・業務分担や組織について見直しを図り、特定の教職員に負担がかかり過ぎないようにする。 ・校務システムの連絡掲示板を活用や、サポートスタッフとの業務分担をさらに進め、時間短縮を図る。	・やることは増えるが、時間が減っている現状があるのではないか。時間配分を見直したり、フォローシップを身に付けさせたりすることが大切ではないか。						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>57.9</td> <td>▲3.6</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	教員	57.9	▲3.6			
対象	結果	差							
教員	57.9	▲3.6							

※ 各学校は上記の評価項目を参考に、それぞれの特色に応じた独自の項目を設定することができます。